

児童サービス論

国立国会図書館国際子ども図書館
杉山きく子

はじめに

- ・ 児童サービスに携わっている方へ エールを送りたい
- ・ 児童サービスを未経験な方へ 子どもの本のすばらしさと子どもの読書の持つ力を伝えたい

1. 基本的な考え

子ども時代という宝庫

- ・ 子ども時代の読書ほど、遠く深く旅をすることはない
- ・ 子どもと大人とでは本の読み方が違う
- ・ 子ども時代の読書体験は心の深いところで時をかけて熟成し、人生を支える

選書に対する姿勢

「子ども時代は本に対する好みや質が養われる大切な時期であり、読書に対する態度や習慣が形成されるかけがえのない時期である。しかも、子ども時代は非常に短く、貴重である。したがって、子ども時代に出会う本は、最適、最良、最高のものであるべきである。」
『児童サービス論』 樹村房 p41

「本を選ぶのは図書館員の仕事であり、それが仕事なのだ。」

「児童図書館員は、利用する子どものために本を選ぶことの責任を委ねられていることをしっかり自覚してほしい」
『児童図書館サービス論』 理想社 P75

要求論と選書論

- ・ 子どもの要求に従ったら図書館の棚はどうなるか
- ・ 児童の権利とは

「図書館は、その責任をどう果たしたらよいか。たとえば、なるべくよく選んで、図書館の棚では、子どものエネルギーを散らさないように配慮するとか、できるだけ永続的な価値のある本に行きつよう、図書館員が仲立ちとなって手助けをするとか、そういったことが考えられるでしょう。いくら予算があるからといっても、出版される本を片っ端から買っていたのでは、図書館は、出版界の単なるショウースになり、図書館独自の機能を発揮

できません。年月をねていくうちに、そのときそのときの出版物と、図書館にたくわえられた書物とが、質的に違ってきてこそ、図書館は、自分の存在理由を明らかにすることができると思うのです。」

(『こども・こころ・ことば』 松岡享子著 こぐま社 161 p)

2. 子どもと本を取り巻く現状

子どもの環境 特にこの20年間に起こったこと

- ・遊びの変化
- ・メディアの影響
- ・言葉の問題

子どもの読書環境

- ・一般社会の子どもの本への眼
- ・出版界の現状
- ・在野での読み聞かせやおはなし会の活動

自治体運営のなかの図書館

- ・ 厳しい予算のなかでコストが問われる
- ・ 人員削減と通年開館、開館時間の延長
- ・ コンピュータ化により加速されたこと
- ・ 基本的な本が書架から消えていく危険

3. 現実を踏まえて私たちができること

絵本は子どもが始めて出会う本だから大切にしよう

- ・ どの絵本を手にとっても親も子も楽しい読書生活のスタートを切れるような工夫

一人で読み始めるとき

- ・ 質の良いファースト・リーディング・ブックの出版を望む
- ・ 『かいけつゾロリ』シリーズはなぜ読まれるか

排除の精神ではなく受容の精神を

- ・ 子どもが図書館で受け入れられたという思いを抱いてほしい
- ・ 学校図書館との関係
- ・ 読んでもらえれば、どんな子も楽しめる

- ・ 子どもへの読み聞かせやストーリーテリングから得られる感触を力に
- ・ 漠然と心の冒険を求めてくる子どもに積極的に働きかける
- ・ 読書に臨界期はない
- ・ 親に読んでもらえない子ども、本と無縁の家庭の子、日本語を母語としない子どもを視野に入れる
- ・ 子どもの生活をトータルで考える

児童サービスへの理解を全職員へ広げる

- ・ 職員、非常勤職員などへの研修
- ・ 子どもはすぐに大人の利用者になる

子どもたちよ
 子ども時代をしっかりとたのしんでください
 おとなになってから
 老人になってから
 あなたを支えてくれるのは
 子ども時代の「あなた」です
 石井桃子 2001年7月18日
 杉並区立中央図書館 『石井桃子展』から

紹介した本

絵本

- 『金のがちょうの本』 レズリー・ブルック文・絵 福音館書店 1980年
 - 『三びきのやぎのがらがらどん』 マーシャ・ブラウン作 福音館書店 1965年
 - 『せきたんやのくまさん』 P.ウォージントン, S.ウォージントン作 福音館書店 1979年
 - 『ねずみくんのチョコッキ』 上野紀子絵 なかえよしを作 ポプラ社 1974年
 - 『ひとまねこざる』 H.A.レイ作 岩波書店 1983年
 - 『ひやくまんびきのねこ』 W.ガアグさくぶん・え 福音館書店 1961年
 - 『よかったね ネットくん』 R.チャーリップ文・絵 偕成社 1969年
 - 『ロバのシルベスターとまほうのこいし』 W.スタイグ著 評論社 1978年
- 物語
- 『あたまをつかった小さなおばあさん』 ニューウェル作 福音館書店 1970年
 - 『大どろぼうホッツェンプロッツ』 プロイスラー作 偕成社 1966年
 - 『きえた犬のえ』 シャーマット作 大日本図書 1982年
 - 『きかんぼのちいちゃいもうと』 ドロシー・エドワーズ作 福音館書店 1978年
 - 『たんたのたんけん』 中川李枝子作 学習研究社 1971年

- 『ドリトル先生航海記』 ロフティング作 1961年
『“なんでも”ふたつさん』 M・S・クラッチ作 大日本図書 1977年
『はてしない物語』 エンデ著 岩波書店 1982年
『夢を掘りあてた人』 ヨハンナ・インゲ・ヴィーゼ作 岩波書店 1969年

一般書

- 『あなた自身の社会 スウェーデンの中学教科書』 新評論 1997年
『子ども・こころ・ことば』 松岡享子著 こぐま社 1985年
『児童サービス論』 中多泰子編集 樹村房 1997年
『児童図書館サービス論』 赤星隆子, 荒井督子編著 理想社 1998年
『日本子ども資料年鑑』 KTC 中央出版
『図書館でそろえたいこどもの本 1～3』 日本図書館協会
『街から消えた子どもの遊び 萩野矢慶記写真集』 萩野矢慶記著 大修館書店
1994年
『メディアと暴力』 佐々木輝美著 勁草書房 1996年
『私たちの選んだ子どもの本』 東京子ども図書館 1991年